

研 究 結 果 報 告 書

所属 常熟理工学院
役職 日本語科・講師
氏名 程 青

【研究テーマ】

日本古典文学における御霊信仰の伝承に関する研究

【研究結果】

本研究は日本文学に構造化されている御霊信仰に関して考察したものである。

御霊信仰に関する従来の研究は、政治史・宗教史・思想史などの歴史的な観点からアプローチする傾向にあり、文学的なアプローチに関しては、「記紀神話」を対象とする発生論に比重が置かれていたと言える。それに対して本研究では、御霊信仰というものが、文学作品という媒体によって時代を越えて継承されてゆくという予測のもとに、『源氏物語』（平安時代）、謡曲『葵上』（中世）、御伽草子『六条葵上物語』（近世前期）、読本『雨月物語』（近世中期）、実録小説『四谷雑談』（近世後期）、歌舞伎怪談狂言『東海道四谷怪談』（近世後期）といった作品を対象として考察を展開した。そして、各作品の中に御霊信仰がどのようなかたちで組み込まれているかを分析し、その構造と展開の様相を具体化することに努めた。

本研究の立場は、民俗学研究や文学研究の方法を導入し、構造的な分析という方法で、平安時代から近世にかけて、文学作品に構造化されている御霊信仰に関する考察を試みようとするものである。民衆宗教史や民衆思想史によって報告された個々の事例から帰納されてくる御霊信仰の構造が、実際に物語の文脈にどのようにして組み込まれているのかを考える。こういった構造を手がかりに、そこに組み込まれている御霊信仰の本来的な姿勢を読み取っていくというのが本研究の立場であり、その特徴ともなるところである。構造的な分析という方法によって、これらの文学作品に組み込まれている御霊信仰の構造と展開の様相を具体的に考察していくことになった。

結論では、各章で取り上げた文学作品の文脈に組み込まれている御霊信仰の構造について総括し、その継承と展開の様相を具体化するうえで文学研究によるアプローチこそが有効であることを論じた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

(1) 「『源氏物語』における御霊信仰－六条御息所の祟りを中心に」・程青・日本古典文学授業・2024年2月～2024年4月 蘇州城市学院

(2) 「『東海道四谷怪談』における鎮魂儀礼－お岩の鬼子母神像をめぐって－」・程青・蘇州東呉高端論壇・2024年10月26日 蘇州城市学院 (予定)

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

(1) 「『四谷雑談』における御霊信仰－六条御息所の祟り神としての継承」程青・投稿中

(2) 「日本の御霊信仰と中国の水神信仰－失脚した政治家を例に」程青・投稿中

書籍(題名・著者名・出版社・発行時期等)

『大学日本語授業における日本文化の要素論』・程青・編纂中